1. 評 価 結 果 概 要 表

評価確定日　平成20年　4　月　16　日

【評価実施概要】

事業所番号	2277100919
法人名	医療法人社団　白梅会
事業所名	グループホーム　ハーモニー
所在地 （電話番号）	〒431-1112　浜松市西区大人見町　3028番地の1 (TEL　053-485-7711)

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町　4番1号
訪問調査日	平成20年2月27日

【情報提供票より】（平成20年1月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　13年　4月　1日	
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計　27　人
職員数	16　人	常勤　14　人，非常勤　2　人，常勤換算　13.8

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	3 階建ての　1 階　～　3 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	34,000　円		その他の経費（月額）	18,000　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　100，000　円）		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または　1ケ月あたり　52，200円			

（4）利用者の概要（平成20年　1月　1日現在）

利用者人数		26 名	男性　8 名	女性　18 名	
要介護1		7　名	要介護2	7　名	
要介護3		8　名	要介護4	4　名	
要介護5		名	要支援2	名	
年齢	平均	83.8 歳	最低　63 歳	最高　94 歳	

（5）協力医療機関

協力医療機関名	内田記念医院　糟谷歯科医院　根上り松診療所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今年4月に開設8年目を迎える実績のあるホームであり、母体となる法人はグループホーム事業への確固たる信念と独自のサービスに対する自負を持って臨んでいる。人を作り人を育てる方針の基に介護職員は整えられた教育システムの中で育成され、生き生きと働いており、家族アンケートからも満足度が高い結果が窺えた。記録類が整備され介護経過や家族とのやり取りが明確であることも特筆に価する。敷地内の散歩道や公園への毎日の散策は利用者にとって何よりの楽しみであり、健康づくりの礎となって今冬、風邪に罹る利用者を一名も出すことはなかった。地域グループホームの魁として法人のバックアップを享受し、利用者に反映出来るよう今後も取り組んでいくことを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の要改善事項は契約文書への「権利・義務の明示」が課題となっていたが、利用者の人格の尊重、権利の拡大とともに、利用者が果たすべき義務について明記されている。家族への情報提供について、状況報告の様式を考案し毎月利用者の具体的な情報を記入し、家族の元に届けている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

各ユニットのリーダーは職員個々にインタビューしながら自己評価に取り組み、更に自己評価を基に勉強会を実施しており、ホーム全体で評価を活用しサービスの向上に繋げる意識の高いことが窺えた。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は自治会代表、婦人会代表、民生委員、利用者家族、市職員、施設長、職員をメンバーにして2ヶ月毎に開催されている。昼食を一緒にいただいたりしながら双方向での情報交換を密にして地域のお楽しみ会への参加や婦人会との交流も生まれ協力体制が整いつつある。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

入居時に苦情の申し立てについて説明している。面会時には職員から声をかけ、家族が話しやすい雰囲気を作るようにしている。運営推進会議の取り組みの中から家族交流会が生まれ職員手作りの料理を囲みながら、また遠足等により関係作りに努めている。家族からの意見は申し送りや毎月の勉強会で伝達し、速やかに対応し必要とあれば施設長を交え対処反映できるよう取り組んでいる。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

複数の施設の中に立つホームとして近隣の方々との交流は日常的には難しいが運営推進会議の取り組みから地域活動に参加できる機会が得られるよう情報交換をしている。毎年6月には幼稚園児と一緒に「梅取り」を楽しんでいる。家族交流会では地域の方や市職員を招き、また、自治会のお楽しみ会には利用者が参加するなど、地元の人々と触れ合う機会を作っている。

2. 評 価 結 果（詳 細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が一日でも長く普通の生活を続けられるよう支援することを事業所独自の介護理念として取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は基本理念を実践するための具体的な介護目標をあげている。今年度は「月一回、四季を感じられる体験をする」とし、積極的に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年6月には幼稚園児と一緒に「梅取り」を行っている。又、家族交流会に地域の方を招いたり、自治会のお楽しみ会に利用者が参加するなど、地元の人々との交流に努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットのリーダーが職員にインタビューしながら自己評価に取り組んでいる。外部評価調査時には管理者と法人の理事が同席するなど事業所の意識は高く、改善項目は積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回開催している。自治会・婦人会など地域の方が毎回参加し利用者の様子やホームの取り組みを説明したり、地域活動に参加できる機会が得られるよう活発に情報交換を行っている。会議を開くようになり地域の方がボランティアとしてホームを訪れる機会が増えている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族交流会に市の相談員を招待し、実際にホームの取り組みを見て頂き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者状況報告書と毎月の行事予定を家族に郵送し、利用者の様子を知らせている。小遣帳は2ヶ月に一回報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情の申し立てについて説明し、重要事項説明書に施設の支援専門相談員名が明示されている。面会時には職員から声をかけ家族が話しやすい雰囲気を作るようにしている。家族からの情報は申し送りや毎月の勉強会で伝達対応し、必要とあれば施設長を交え対処反映できるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時は利用者一人ひとりに挨拶し、異動の場所を報告している。また、日常生活の中で全職員が3ユニットの利用者にかかわり、馴染みの関係を築くことで、異動時のダメージを最小限にとどめられる様配慮している。新任職員は1ヶ月ほど職員に同行し、ホームや利用者について理解し慣れるようにしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新人・中堅・フォローアップ研修への参加とホーム独自の教育ﾏﾆｭｱﾙを作成し新人研修を行ってる。また、月一回の勉強会では当直職員以外は全員参加し、情報の共有とサービスの質の向上に努めている。ケアマネージャー・介護福祉士資格取得も研修や経費の補助を含め積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時には情報交換しているが、交流の目的で勉強会や相互の訪問はしていない。同業者のホーム見学などは受け入れている	○	他の事業所との交流により、管理者や職員がお互いの取り組みや困っていることなど情報交換することで、双方向でのサービスの質の向上に繋げられることを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は事前に見学していただき、利用者がホームの生活に馴染めるよう必要な情報収集を行っている。入居は午前中に行い、職員が蜜に関わることで利用者の不安が軽減できるよう努めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常的に食事の準備や片付け・清掃・洗濯・入浴など利用者と一緒に行う中で、利用者ひとり一人の出来ることを見出し、力を引き出せるような関わりをしている。利用者へ「ありがとう」という感謝とねぎらいの言葉がさりげなく自然にかけられている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグランドアセスメントにより、入居者ひとり一人の生活暦を把握し、日常生活の声かけなどで希望や意向を引き出し散歩や習字・活け花・ちぎり絵など無理強いせずに利用者それぞれが好むことに自由に参加できるようにしている。喫煙者は希望時には庭やベランダなど屋外で喫煙できるようにしている。		
hikidasi					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画はバックグラウンドアセスメントをもとに入居後の生活状況など情報収集し、本人・家族の要望を取り入れながらカンファレンスにて職員全員で検討・作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はケアプランのサイクル表を用いて3ヶ月ごとに見直しを行っている。利用者に変化があった時は見直し期間に関係なく家族に連絡し、家族の意向を伺いながら本人の状態に即したプランに変更している。家族との同意が一部、滞っている計画表がみられた。	○	3ヶ月ごとに、しっかり見直されているので事務室に掲示されている独自のケアプランのサイクル表を活用して、家族の同意の漏れを防いでいただきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の老人保健施設・診療所でサービスを行っており、ホーム独自での取り組みはしていない。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の望むかかりつけ医や医療機関へ受診できるよう支援している。受診時の送り迎えは家族に依頼している。　法人内の診療所も受診が可能であり、送迎はホームの職員が対応している。専門外では紹介状にて診療情報を提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の方向性について家族と話し合い合意を得ている。利用者の日々の変化は申し送りで情報収集し、変化のある時はその都度家族に連絡している。必要に応じて主治医を交えて家族の意向を再確認し、方針の共有化を行っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者ひとり一人の尊厳の維持やプライバシー保護に留意した声掛けや対応をしている。利用者の記録は各ユニットの事務室に保管され職員以外の目に触れないよう管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の生活は利用者ひとり一人の希望やペースを尊重し、無理強いしないよう声をかけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付けなど、持てる力に応じた関わりが出来るよう声をかけ一緒に行っている。陶器やランチョンマットには温かい家庭的な雰囲気がある。週一回の食事作りは利用者の希望を取り入れ、買物から片付けまで利用者と共に「食」を楽しむよい機会となっている。職員は、利用者の食事の見守りやサポートに徹している。	○	利用者と共に食卓を囲むことが日常的に行われ、馴染みの関係が深められるよう期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜～土曜まで毎日入浴は可能であり、保清のため週3回は入浴していただいている。時間、シャワー浴など入浴のスタイルも希望を尊重している。時にはゆず湯や入浴剤などを利用し季節を楽しめるよう工夫している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	共有ｽﾍﾟｰｽの清掃や洗濯物たたみ、お絞り作りなど利用者と一緒に行い、持てる力を活かした取り組みをしている。また、法人内で行っているちぎり絵のサークルに参加するなど、楽しみの機会を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日の日課となっている。冬でも毎日続けたことにより体力・免疫力が向上し、風邪を引く利用者が減少した。また、今年度は「四季の変化を楽しむ生活」を介護目標に上げ行事や日々の暮らしの中で沢山の四季を感じていただけるよう取り組んでいる。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ﾎｰﾑ前の道路端が急斜面となっているため、一階玄関は利用者の安全を考えご家族の同意の上施錠されているが、1･2･3階へのｴﾚﾍﾞｰﾀｰは開放され利用者は各階に自由に行き来している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月毎に利用者と共に実際の避難経路を使った防災訓練を実施している。ホーム職員だけでなく隣接する施設職員の参加する訓練も行われている。自治会と運営推進委員会を通じて情報交換を行い、地域の防災訓練に参加していく方向で検討している。法人敷地内にﾄｲﾚやｽﾄｰﾌﾞ、非常食等が用意されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による管理の下、バランスの取れた食事が提供されている。毎日の摂取量は記録され一人一人の状態が把握できている。水分摂取量が少ない場合は、好む飲み物に変更して配慮している。	○	一年を通じて毎日の水分摂取量の把握と、職員の情報共有が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階ベランダからは自由に庭に出ることが出来、四季の変化を日常的に楽しむことが出来る。共有ｽﾍﾟｰｽは広くゆとりある空間となっている。一階ユニットは太陽の採光も少なく、他のユニットに比べ和室などの共有空間の暗さが少し気になった。浴室の脱衣所に洗剤入り容器が放置されていた。	○	利用者それぞれの状態を把握した管理の工夫と職員の意識統一を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての居室はベランダへの出入りが自由であり、外の景色を十分楽しむことができる。使い慣れた家具・キルト、制作のフラワーアレンジメント・習字など一人ひとりの好みや趣味を活かした品々で囲まれ、暖かい住まいとなるよう工夫されている。		